



2020年6月15日

各 位

会 社 名 パーク24株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 西川 光一  
 (コード：4666、東証第一部)  
 問合せ先 取締役専務執行役員経営企画本部長  
 佐々木 賢一  
 (TEL：03-6747-8109)

## 2020年10月期第2四半期業績予想と実績との差異並びに 通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

2019年12月16日に公表しました2020年10月期第2四半期(累計)連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において、2019年12月16日に公表しました2020年10月期通期連結業績予想及び配当予想を下記のとおり修正することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2020年10月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績の差異(2019年11月1日～2020年4月30日)

##### (1) 連結業績予想と実績の差異

	売 上 高	営 業 利 益 又 は 損 失	経 常 利 益 又 は 損 失	親会社株主に帰 属する四半期純 利益又は損失	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 159,700	百万円 10,100	百万円 9,600	百万円 6,100	円 銭 39.47
実績(B)	145,679	△1,229	△2,020	△2,589	△16.77
増 減 額(B-A)	△14,021	△11,329	△11,620	△8,689	△56.24
増 減 率(%)	△8.8%	△112.2%	△121.0%	△142.4%	△142.5%
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年10月期第2四半期)	154,124	9,970	9,523	5,628	36.38

##### (2) 差異が発生した理由

当第1四半期は、各事業の拡大及び2019年10月の消費増税への対応等が順調に進捗したことにより予想を超える業績となりました。しかしながら、当第2四半期から新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)拡大抑制のための外出自粛や企業の営業活動縮小が国内外の事業へ影響を及ぼしはじめ、日本政府から全国に緊急事態宣言が発出されたことに加え、海外のサービス展開国の一部政府から強制力の強い移動・行動制限やロックダウンが発令される等、その影響は徐々に強くなりました。こうした状況を鑑み、グループ全社及び全事業においてあらゆる経費の見直しや削減を行いました。こうした状況が、駐車場の稼働やモビリティサービスの利用の急激な低下による売上高の落ち込みが強

く、各段階利益ともに従来予想を大きく下回りました。

## 2. 2020年10月期 通期連結業績予想の修正(2019年11月1日～2020年10月31日)

### (1) 連結業績予想の修正

	売上高	営業利益 又は損失	経常利益 又は損失	親会社株主に帰 属する当期純利 益又は損失	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	333,000	26,700	25,500	16,500	106.73
今回修正予想(B)	263,000	△24,200	△25,000	△25,500	△164.94
増減額(B-A)	△70,000	△50,900	△50,500	△42,000	△271.67
増減率(%)	△21.0%	△190.6%	△198.0%	△254.5%	△254.5%
(ご参考)前期実績 (2019年10月期)	317,438	22,322	21,566	12,348	79.79

### (2) 修正の理由

感染症の世界的な拡大により経済への影響が懸念される中、当社グループでは感染症拡大防止とお客様、社員並びに関係者の皆様の安全確保を最優先にしながら各サービスを運営しており、現時点でその運営に大きな問題は生じておりません。

5月には国内で全国的に緊急事態宣言が解除され、また海外の一部展開国で移動・行動制限やロックダウン等が緩和され、経済活動が再開しました。しかしながら、感染症拡大に備えた「新しい生活様式」が発表される等、外出自粛や移動の制約、企業の営業活動の縮小は続いていることから、引き続き各サービスの利用は低調に推移することが予想されます。

今期の業績予想につきましては、感染症拡大の第2波への警戒が高まる中、駐車場やモビリティサービスの需要回復時期の予測は極めて困難ではありますが、足元の業績推移をもとに、以下に記載の下期6か月間の仮定条件に基づく感染症影響額を試算し、当初の業績予想に上期は実績を反映、下期は当該影響額を加味する方法で算出しました。

ただし、試算における仮定条件として設定した回復見込み推移と実際の推移とに差異が生じた場合には、実績が上記予想と大きく乖離する可能性があります。

#### [試算における仮定条件]

- 売上高
  - ・ 感染症拡大による影響で通期約700億円減少
  - ・ 下期、5月は実績(海外は4月実績)で当初予想比約50%、6月以降は経過月ごとに約5-10%で回復、当期末の10月は同約85%を見込む
- 営業費用
  - ・ 売上高減少に伴う費用の減少(変動費分)や、各事業における運用の効率化等を図ると同時に、社内における経費削減を強力に推進することにより約190億円減少

### 3. 2020年10月期 配当予想の修正

#### (1) 配当予想の修正

	年間配当金(円)		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想	円 銭 0.00	円 銭 70.00	円 銭 70.00
今回修正予想	0.00	0.00	0.00
当期実績	—	—	—
前期実績 (2019年10月期)	0.00	70.00	70.00

#### (2) 修正の理由

当社は、利益成長による企業価値向上を第一義と考え、持続的成長に必要な投資資金としての内部留保の状況を勘案した上で、余剰資金については配当を中心に株主の皆様へ利益還元することを基本方針としております。

当期は、上記「業績予想の修正」のとおり、当社株式上場以来初の当期純損失を見込まざるを得ないほど、感染症拡大が当社グループの事業に及ぼす影響は甚大となっております。このような未曾有の厳しい経営環境において、手元流動性を確保することが事業継続において喫緊の課題であると同時に、収益力の回復に向けた財務基盤の安定化が急務であることから、誠に遺憾ではありますが、当期末の配当予想を無配とさせていただきます。

当社グループは、可能な限り早期の業績回復に取り組んでまいりますので、株主・投資家の皆様におかれましては、ご理解並びに引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### (注意事項)

本資料に掲載しております予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の数値は今後の様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上